令和4年度　武生高校定時制　学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
1 教育課程 ・ 学習指導	わかる授業を実践し、生徒の授業参加を促して自主的な学習意欲を引き出す。	授業の改善には全教員が取り組んでいる。高い意識をもち好成績をあげた生徒がいる一方、授業への姿勢や出席に関して不安定な生徒も増えており、二極化が進んでいるように思われる。入学してくる生徒の特徴もここ数年で大きく変化してきており、そこに焦点を当てることが必要である。	生徒それぞれの状況が多様であるため、全体指導では細やかな対応が難しい。個々の生徒の状況把握と情報の共有化により、綿密に個別対応していくようにしたい。教員の側が、学習評価のあり方やICTの活用など、多様性に対応した教育観と手法を身につけることができるように研究を進めることも重要と考える。
2 図書啓発	読書の大切さを啓蒙して心豊かな生徒の育成を図る。	読書離れが進んでいるが、スマートフォンを使って小説を読んでいる生徒や、興味のある分野の専門書を読んでいる生徒もいて、読書に関心を持つ生徒はいる。今年度は科学系の雑誌やカルチャー系の雑誌を定期行動くするようになり、それを読んでいる生徒も見かけるようになった。生徒のニーズに対応して働きかければ効果はあると思われる。	図書委員の活動などを通じて啓蒙活動と、アンケートによる生徒の興味・関心の調査をもとに、書籍だけでなく、雑誌などの購読により、利用する生徒を増やしていきたい。
3 生活指導	生徒心得やマナーを守り、規範意識を高めさせる。その際に、専門機関等を活用する。	・「校則を守っている」と答えた生徒の割合は100％で昨年度比13ポイント向上した。 ・「子どもは校則を守っている」と答えた保護者の割合が91％から87％に低下した。 ・生徒の規範意識やコンプライアンス遵守の向上に向けて、今後も継続した指導を行っていきたい。	・「生徒の生徒心得違反や問題行動に対して教員が毅然と適切に指導している」の割合が94％から75％に19ポイント低下した。 ・生徒心得やマナーの遵守と規範意識は今年度より指導基準の緩和等により改善傾向にある。結果、徐々に問題行動等も減少した。今後も「生徒一人ひとりの個性と人権を尊重」した指導を継続的に行っていきたい。 改善策としては、全教職員が一貫した指導方針の下、生徒の充実した学校生活に寄与していきたい。
	自転車の車体検査や交通安全教室を実施し、警察署と連携して交通安全指導を行う。	・「交通ルールを守っている」と答えた生徒の割合が97％から100％に向上した。 ・「我が子は交通ルールを守っている」と答えた保護者の割合は95％から99％に向上した。生徒、保護者ともに、交通安全意識が高まり、目標を達成することができた。	・生徒の重大な交通違反や交通事故等の報告はなく、これまで警察署や関係機関と連携して指導を行ってきたことが成果として現れている。今後も、「自他の命を尊重する心」を育む教育や交通安全教室等を、関係機関と連携しながら、継続的に取り組んでいきたい。

4 進路指導	「総合的な探求の時間」を活用し、ソーシャルスキルに関して、入学から卒業までをスパイラル的にデザインしたカリキュラムによる指導を行い、キャリア教育を充実させる。	成果としては、一人一人に応じた進路指導を行っていると回答した教員が100%で、様々な機会を捉えて進路指導を行っていることが評価できる。進路について話し合う機会について、保護者の76%が子どもとその機会を持っていると答えており、保護者の77%が教員は個々の生徒の進路実現に努めていると答えている。また、総合的な探求の時間を通して進路に関する知識を得ている生徒は、83%と著しく増えた。課題としては将来のことについて保護者や教員と話している生徒は49%と低い評価にとどまっている。	生徒が進路について、保護者や教員と話す機会が少ないことが課題である。原因としては、コロナ禍において、保護者対象の進路に関する研修会がなくなったことや、進路に関する校外研修の時間がなくなってしまったことなどが考えられる。今後は、適切な時期に適切な情報を出し(進路だより等)、また進路について考える企画を設けながら、生徒と保護者、教員が進路について共に考える時間をもてるようにしていきたい。
	a)講演会や職場見学などの進路に関する行事等を通して、生徒の適正な進路選択と進路先決定後の支援をする。 b)画一的でないサポート学習(模擬試験と基礎学力の支援補習)の効果的な実施を目指す。	生徒一人一人に応じたサポート学習を目指している教員が100%、学校が応募前職場見学やオープンキャンパスなど進路に関する行事を進路指導に役立てていると評価する保護者が84%であった。また、「ようこそ先輩」や」「進路講演会」などへの参加は進路を考えることに役立ったと回答した生徒は81%(昨年53%)と、大きな成果を上げていると思われる。外部機関の協力を得た就職のための面接練習ができなかった。	模擬試験は実施しているが、受験後の指導に改善の余地があると思われる。コミュニケーションをとりながら、進路実現にむけて適切な指導を行っていきたい。また、コロナ禍のため、企業見学を行うことはできなかったが、今後は外部機関の協力を得ながら、実施していきたい。
	ふくい若者サポートステーションを始めとする外部機関や教育相談との連携を密にする。	外部機関との連携について、100%の教員が連携を密にして進路指導を行っていると回答し、保護者の84%が外部機関との連携を進路指導に役立てていると評価している。実際、教育相談や様々な外部機関と連携することによって、進路先を決定するのが困難と思われた生徒が、就職や進学を決めることができた。	外部機関との連携の重要性やその有用性を、生徒、保護者、教員の三者が認識しているが、「ふくい若者サポートステーション」の援助は、就職希望者全員に対するものではないので、支援を必要とする生徒に適切な情報を知ってもらうことが重要である。
5 教育相談 保健	担任・SC/SSW・通級担当者とのケース会議を実施し、生徒理解を深めて適切な支援に努める。	「学校の先生やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、保健室の先生に悩みを聞いてもらったことがある、聞いてもらえることを知っている、この先悩んだときは聞いてもらいたい」と回答した生徒は93.6%であった。また、この相談体制を知っていると回答した保護者も87.7%であり、目標を達成した。 支援を要する生徒のケース会議を必要に応じて開催して生徒情報を共有し、必要であれば公的機関や就労支援機関との橋渡しを行うなどの支援に努めた。また越前市みんなの食堂が主催する「おにぎり食堂」を校内で定期開催し、生徒からは好評を得た。	様々な相談相手がいることをほぼ全員の生徒・保護者が知っている。気軽に相談している生徒の姿がよく見られた。毎日の終礼時に生徒情報の共有を実施しているが、次年度も教員全体で生徒情報を共有し指導にあたりたい。さらに担任・SC/SSW・通級担当者と連携し、児童相談所・市役所・保健所・就労機関などと協働して問題解決にあたりたい。 支援を頂いている「おにぎり食堂」であるが、次年度は、より多くの生徒が利用しやすい曜日に変更できるとよい。
	校内環境美化や新型コロナ感染症対策をはじめとした衛生管理を推進する。	「新型コロナ感染症対策のため検温やマスクの着用、消毒に取り組んでいる」と回答した生徒は90%を越え目標を達成した。また、数値目標とはしなかったが、77.6%の保護者も感染症対策に協力的であった。 「校内のゴミ分別に取り組めたか」の問いに95.3%の生徒が、「十分に」または「だいたい」取り組むことができたと回答した。校内美化の取り組みもほぼ達成できた。	新型コロナ感染症対策として、登校時の検温・消毒・マスク着用ができたのは、ほぼ全生徒であり、生徒の意識向上・衛生管理推進は目標を達成した。新型コロナウィルスが第5類に引き下げられる予定だが、インフルエンザを含め学校内での感染拡大防止に引き続き努めていきたい。 校内美化については、ゴミ分別だけでなく生徒の意識向上を図る必要がある。週2回、各10分の清掃活動であるが、短時間で取り組めるように使いやすい清掃用具を導入するなどの改善を行いたい。